

9月19日夜10時からのNHKテレビ「深澤晟雄の『その時』歴史が動いた」は、日本列島を感動の渦に巻き込みました。その反響をインターネットのブログから、いくつか抜粋して紹介します。

本当に偉い人とは

歴史は苦手科目なのでこの番組は滅多に見ないのだが、昨日は引き込まれるように見た。これまで聞いたこともない深澤晟雄という人の話だった。

法律違反になるかもしれないのに助成に踏み切ったということとは、自分のことは差し置いて村のことを考えていたということだろう。本来政治家はこうあるべきなのだ。世の中偉いと言われる人は多く存在するが、本当に偉い人ってのはこんな人だと思った。

かっこいいセリフ

「国がやらないのなら私がやりますよ。国は後からついてきますよ。」漫画読んでたってこんなかっこいいセリフ出てきませんよ。こんなこと言ってるのに、全然カッコつけ野郎に思えないリアルな感じがこの人の業績ににじみ出ています。

ここから、全国で乳幼児医療費

無料化の動きが起こるそう。僕こういうヒューマニズムにはめっちゃくちゃ弱いんです。すぐ泣きます。あー、感動した…。

「燃える雪」再演も

かつて「村長ありき」を題材に沢内村で合宿して「燃える雪」を上演した劇団銅鑼です。

政治は誰のためにあるの？ということも、命の尊さもあるそかになっている今、けして過去の話ではないと思えました。劇団でも、リニューアルしての再演の声があがっている「燃える雪」。うん。大いに検討の余地あり。

乳児死亡0に感動

今でこそ無料は常識です。当時は、村議会や県からさえも反対があつたそうですが、「政治の理念はまず住民の健康、命の尊厳を守ること」を信念としてついにその村では乳児死亡率が0になったのです。これには本当



に感動しました。こんな世の中だからこそ命の大切さを認識させられる内容でした。

母の故郷を誇りに

「その時歴史が動いた」をみて涙が止まりませんでした。沢内村は母の故郷であり、祖母が助産師として働いていたので、とても思い入れの深い村です。

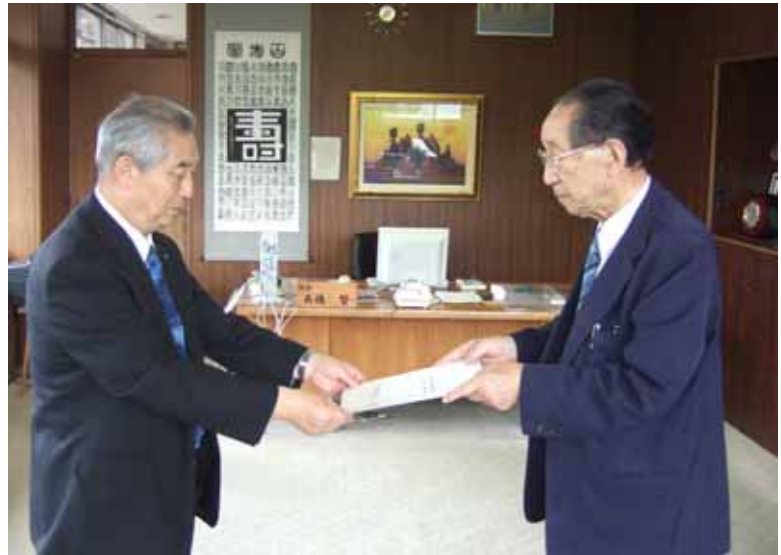
今、小さな子どもを育てている母として、医療費無料化を最初に実行したのが沢内村であることに誇りを持ちたいと思います。

録 集 編

北上市在住の恩師から「NHKテレビを見た」と入会申込書を添えた手紙に次の文面があつた。沢

内（孫が）四国高知の中学校で社会科学教科書の「住民の健康を守る村」で沢内の勉強をしたようです。北上に来たときには必ず沢内に連れて行っています。今朝も電話で「テレビ見たよ」と感激していました。孫からすれば、祖母の実家は沢内だが、母は沢内生まれでも実家は北上である。母の実家を訪ねることに、必ず沢内まで足を運ぶという。何がそうさせるのだろう。インターネットのブログに書き込むのは若い世代が多いと聞く。そのブログは「感動した。命の尊さを知った」の大合唱である。若い魂を震わせる深澤精神は健在であり、今なお輝いている。そういえば恩師の孫もブログ世代だ。その書き込みに大いに共鳴するだろうと考えると、奥羽の山ひだ・深澤晟雄生誕の地に「命のふるさと」を感じて、惹かれるものがあるのかも知れない。(Y)

旧看護婦宿舎を資料館に 町長と議長に要望書



高橋町長に要望書を手渡す太田理事長 (湯田庁舎の町長室)

深澤晟雄の会では、沢内病院の旧看護婦宿舎を「深澤晟雄資料館」として活用させて頂きたいと、9月5日高橋町長と佐々木議長に要望書を提出しました。

旧看護婦宿舎は雪国の健康モデル住宅として、昭和38年に建設。深澤晟雄の胸像と全国運動で建立された

「命の灯」を挟んで沢内病院と向かい合っています。宿舎自体、初の雪国モデル住宅として保存価値があり、周囲の環境も含めて、建物の内外まわること資料館といえます。

「深澤晟雄資料館」の実現に向けて、町民の皆さんのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

会員77人、寄付金124万円

法人登記終え活動本格化

8月28日にNPO法人に認証された深澤晟雄の会は、法人登記など関係官庁への手続きも終え、本格的な活動に入っています。

寄せていただいたのは法人1団体、個人32人(同8人)で、2千円から50万円まで、それぞれに心を込めた寄付金の総額は124万7千円の額にのぼっています。(会員、寄付金共に9月末現在)

会の趣旨に賛同して入会された正会員は77人(うち町外4人)、賛助会員6人(同5人)となり、大きな広がりを見せています。

「生命の尊重・尊厳の心を後世に」という、活動趣旨に賛同される皆さんと共に、活動の輪を広げて行きたいと願っています。

また、本会の活動資金に役立てて欲しいと寄付金を

たいと願っています。

資料収集にご協力を 思い出話や手記も

深澤晟雄の会では、生命尊重行政や深澤晟雄に関する資料を収集しています。収集資料はデジタル化による保存に努めています。ビデオテープはDVDに、写真や音声はCDやMDに保存するため、業者委託やデジタル機器の購入も行うこと、資料の保存に万全を期しています。

保健医療福祉に係る写真や記録、文献、新聞等の報道記事などのほか、当時の思い出話や手記も募集しています。なお、資料の返却希望者には資料を複写した後お返ししています。事務局にご連絡いただければ担当者が伺います。